愛隣館研修センターニュース 第79号

〒612-8141 京都市伏見区向島二ノ丸町 151 2F *TEL* 075-621-3849　*FAX* 075-621-1579
E-mail :airinday@sunny.ocn.ne.jp　*http*://www.airinkan.net　振替 01020-5-39321
編集発行所：社会福祉法人イエス団　愛隣館研修センター　発行責任者：平田　義

「児童虐待」は虐待をする親を処罰するだけで解決できる問題ではありません。虐待をする親自身も、貧困や失業、ＤＶ（ドメスティックバイオレンス）、孤立などの多くの問題やストレスを抱えているのです。虐待で苦しむ子どもを増やさないために、子育てをしている家庭をどのように地域で支えていったらよいのでしょうか？京都市教育委員会特別支援教育サポートチーム委員なども務めておられる、精神科医の定本ゆきこさんにお伺いしました。

児童虐待と地域の補い力（おぎないりょく）

定本ゆきこ（精神科医　京都少年鑑別所法務技官）

児童虐待についての痛ましいニュースが、度々報じられています。まだ小さく弱い存在である子どもが守られず、激しい暴力や過酷な状況にさらされている、目を覆いたくなるような話が、日本のあちこちから聞かれます。

日本という国はどうなってしまったのか、この頃の若い親は・・という言い方は、はるか昔からその時代の若い親に向けられて繰り返されてきたようですが、もはやそんなのんびりした言い方がしっくりくるような事態でもないように思えます。

けれども、100年や200年で人間がそれほど変わってしまうものではありません。変わったのは、子育てを巡る状況や環境の方でしょう。戦後、社会が急速なスピードで変化してきた中で、日本の子育てをしている親と子の生活環境や周囲の状況も大きく変わりました。

最も大きな変化は、子育ての孤立化です。隣近所との付き合いもなく、地域にいても孤立して子育てをしている家庭が増えました。昔は、今ほど物や人の流れがなく、人は代々固定した場所に住んでいたので、地域に密着して生活していました。家族の人数や年齢だけでなく、性格や関係性まで良く知り合った近隣地域の中で、子育てもなされていました。便利な物や道具はなく、毎日の家事は大変だったでしょうが、親は四六時中子どもに目を光らせている必要はありませんでした。外に出れば、必ず隣近所のおじさんやおばさんが子どもに声をかけ、見るとはなく見守ってくれていました。

昔も今のように、若過ぎる母や子どものような父、またいろいろな事情で片親になってしまった家庭もあったことでしょうが、周りには、それを補う多くの大人たちがいました。他人だけれど「他人事」と思わずに、関心を持って親子を見守ってくれる隣人たちがいたのです。

この、地域の「補い力（おぎないりょく）」の機能に、多くの子どもたちが救われたことでしょう。家庭や親に何か問題が生じた時に、身近に関心を持つ誰かがいて、手伝ったり一緒に困ったりしてもらえるだけでも、その家族が最悪の事態に向かっていくことを防ぎます。

最悪の事態とは何でしょう。それは、例えば、職を失い貧困となった場合、昼も夜も働き詰めで過重労働、そうすると親の病気や夫婦のいさかい、暴力や虐待、離婚、転居、転校先での不適応、不登校、低学力、そして非行や犯罪・・等というように、一つの生地のほつれから、どんどんほつれが布全体に広がってしまうような状態です。

「補い力」のない現代社会の怖さは、ドミノゲームのように、一つの駒が転ぶと、堰を切ったように、次々と転んでしまう危うさでしょう。負の連鎖に歯止めがかけられず、始めには想像もつかなかったような事態に、家族を追いやってしまうのです。　2面につづく

地域の中で見守られながら子育てができていると、親の方も、全ての負担と責任を負わなければならないプレッシャーから救われ、楽な気持ちでいられることでしょう。いろいろな困難があったとしても、親が明るい笑顔でいることほど、子どもを安心させるものはありません。また、実際、子どもは親だけを見て育つわけではありません。開かれた目で親以外の大人たちを見て、世の中にはいろいろな人がいることを知り、そして、自分は何となく大人たちに大切にされていることを感じながら育つ方が、バランスのとれた柔軟性のある人になっていくものです。

地域のつながりが失われつつある現代、それに代わるものは行政です。行政による母子保健や児童福祉の働きが、昔の地域が持っていた機能を果たす役割を担わされています。けれども、子どもは、親の宝であると同時に、社会の宝でもあるのです。周りの大人のちょっとした声かけ、心がけで、子どもたちが最悪の事態に向かうことを防ぎ、健やかに守られるとしたらどうでしょう。私たちも、できる身近なところから、子どもを見守り、親に声をかけていくことで、地域の「補い力」を取り戻していきたいものです。

「辺野古新基地建設を阻止するぞ！」～決して諦めない！～

1996年のSACO（沖縄に関する日米特別行動委員会）の合意以来、辺野古での新基地建設を目論んできた自民党政権が昨年９月に交代し、普天間基地の代替基地を「国外移設、少なくても県外移設をすると公約した民主党が政権を奪った。その後、１月には名護市長選挙が行われ、新基地建設に反対する稲嶺氏が当選した。沖縄県民の「基地のない平和な沖縄」への期待は一気に膨らんだのだ。

しかし、鳩山前政権は「迷走」を繰り返し、沖縄の島ぐるみの「米軍基地NO!」の声に耳を貸さず、公約を破棄し、アメリカの意向のみに配慮し、普天間基地の代替施設を辺野古に設置する「日米共同発表」を行った。これは、沖縄県民のみならず、徳之島などの代替施設候補地に名前の上がった地域の「民意＝米軍基地NO!」を踏みにじるものであり、まさに、醜悪な裏切りの決定がなされたいえる。

この６月、私たち「イエス団京都ブロック沖縄平和研修」は失意のどん底で喘いでいる状況に置かれていると思われた沖縄に重い足を踏み入れた。出会った方々は口々に、民主党政権が行っている許し難い暴挙に怒りの声をあげられていた。その上で、「私たちは決して諦めていない！」「私たちは必ず勝利する！」という力強い宣言を聞かされた。やるせない気持ちに押しつぶされ意気消沈してしまっていた自分を恥じ入ると同時に、沖縄の人たちから励まされた自分の姿があった。

へこたれていてはいけない。多くの苦しみを押しつけてきた沖縄の人々に、再び犠牲を強いることは絶対に許されないのだ。普天間基地が即時閉鎖され、辺野古の新基地建設を断念させるために、私たちも声を挙げ続けなければならないと再認識させられた研修であった。（平田義）

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆

2010年4.5.6月の活動

4/5-10　お花見in伏見港公園！　→

4/21　摂食学習会
4/27　京都ブロック会議
　　（於：くずは光の子）
5/24・28
初夏のお出かけ
　in神戸花鳥園　→

6/05　京都ブロック沖縄研修事前学習会
6/06　医療的ケアネット　講演会
6/13　理事運営委員会、SIEA選考会
　　今年は２名が旅立たれます！
6/15　京都ブロック会議(於：桃陵乳児園)
6/16　呼吸についての学習会
6/18　同志社女子高校花の日訪問
　　素敵なお花と出会いをありがとう！
6/22-26　京都ブロック沖縄研修

詩人　柏木正行さん（1945-2006）の
魂に触れる　⑫

愛

良かったね
君たち
君たちの愛が実ったのだから
お父さんと
お母さんになるのだから
ほんとうに良かったね

―柏木正行詩集『路』より

シリーズ「向島ニュータウン30周年」を語る①

1977年から入居が開始されました向島ニュータウンの各街区は30周年を迎えました。そこで、今号から３回シリーズでこの地域のために様々な活動されている方々から、活動の内容やニュータウンへの思いなどを語っていただくことにいたしました。今回ご登場してくださったのは、向島駅前まちづくり協議会会長 福井 義定さん、向島中央公園愛護協力会（愛称「向島中央公園をきれいにしようネット」）山崎 洋一さんです。

「向島中央公園をきれいにしようネット」

「向島駅前まちづくり協議会」は2005年、近鉄向島駅前の空き地に、葬儀場の建設計画の話が持ち上がったことをきっかけに、団地自治会、管理組合、付近の病院などによって結成されました。

「向島駅前まちづくり憲章」を同年10月に定め、葬儀場の建設計画の撤回と住民の生活に役立つ商業施設を誘致する運動をすすめました。その結果、向島駅前に生鮮食品を充実させた新形態のコンビニエンスストアが開店しました。
また、2008年３月より「向島春の祭典」を毎年1回主催するなど、精力的に活動されています。

＜向島中央公園愛護協力会について＞
Q：向島中央公園愛護協力会発足のきっかけは？
山崎：１５年ほど前、公園のある向島の団地を気に入り、引っ越してきました。趣味のマラソンで公園を走らせてもらっているお礼として、公園のゴミ拾いを始めました。「向島駅前まちづくり協議会」の福井さんと出会い、中央公園の掃除のボランティアグループを立ち上げ向島中央公園で清掃活動を行っています。
福井：組織としては、「向島駅前まちづくり協議会」の中の組織の一つで、２００８年３月に京都市の公園愛護登録団体に登録されました。（「公園愛護協力会」とは、京都市が管理する公園の清掃や公園利用マナーなどの啓発活動をするボランティア団体）

Q：どんな人に参加してほしいですか？
山崎：子どもとお年寄りに参加して欲しいですね。そして、公園がきれいになり、子どもたちが将来自分の生まれた町を誇りにできる町にして欲しい。中央公園には、６０種ほどの木が３０００本以上植わっている。２００９年秋に図書館で中央公園の木々の四季の写真やどんぐり（８種類ほど）を並べて、どんな木にどのどんぐりがなるのかを展示し、皆さんに中央公園の木々を知ってもらえるようにしました。
福井：向島ニュータウンでも、1人暮らしのお年寄りが増えています。向島には公民館などの気軽に集える場所がないので、住民が気軽に集い、お茶を飲んだりお話をしたりする場所が欲しいです。
山崎：お年寄りは、なかなか家から出てこない人が多い。歩いて、空気を吸って…体を動かしてほしい。お年寄りが気軽に参加し、人と集える活動になってほしいと思っています。

Q：今後の活動は？
山崎：トンボのヤゴが棲み、ホタルが飛ぶ川の流れる公園にしたい。公園の中央に水源があり、地下水をくみ上げているが、鉄分が含まれているので赤くなる。川に、落ち葉・ゴミ止めのしきり（網の堰）があるが、壊れているので構造的に水が汚れる。水質を改善してホタルの飛ぶ川にしたい。子どもが遊べ、木々を大切にできる公園になってほしいと思います。

向島中央公園愛護協力会は、毎月第３日曜日の朝８：００（６月～９月の暑い時期は朝７：００）に向島中央公園西側広場（近鉄向島駅側）に集合し、約1時間活動しています。
現在の登録者数は約２０名、毎回１０名ほどが参加されており、朝の散歩を兼ねて参加する方が多いそうです。子供さんの参加も大歓迎だそうです。

（インタビュアー：福野由記）

☆まさこさん、なおみさん☆ありがとう！

服部正子さんが2010年3月22日、天国へ旅立たれました。
長いようで短かった約10年の歳月。服部さんの「エビ好き」がスタッフの脳裏に刻み込まれたのは、沖縄での「オマールエビ」事件!?でしたね☆那覇の居酒屋でメニューをあれこれ悩むことなく、即決。「Good」のジェスチャーとともに見せてくださった笑顔、忘れられません。その後、毎年のようにスタッフからの「Good」のジェスチャー催促にも付き合って下さり、ありがとうございました。
体の変化とともに、ミキサー食へと移行しても、甘エビだけはそのままおいしそうに召し上がっておられる姿にスタッフも和まされていました。
正子さんの随所にみせる判断と潔い決断、家族を愛する強さ、スタッフを気遣って下さる気持ち、多くの学びを与えられ、感謝の気持ちでいっぱいです。
本当にありがとうございました。心よりご冥福をお祈りいたします。（辻）

なばなの里にて↑

デイ忘年会にて↑

「すぐ目の前にマッチがいてん」今年の2月、近藤真彦のライブが大阪であり、決して調子がよいとは言えない体で行かれた尚美さんが、とてもうれしそうな表情で語ってくれたことが、つい先日のように思い出される。ちょうどその頃は久々に近藤真彦のNEWシングルが売れ出し、テレビでも特集が組まれることが多かった。
澤田尚美さん　2010年6月12日（土）お母さんの腕の中で眠るように、天に召された。通夜、告別式共にBGMで流れていたのは、尚美さんの大好きな近藤真彦の曲だった。
最後の最後までマッチの曲なんて、なんて尚美さんらしいのだろう
デイサービスのイベントで欠かせない一泊旅行、忘年会。もれなくカラオケがついてきて、必ずマッチの『ギンギラギンにさりげなく』を選び、スタッフに抱えられダンスをさせられていましたね。
尚美さん、今までたくさんの笑顔と楽しい思い出をありがとう★
最後になりましたが、心からご冥福をお祈りいたします。（大島）

☆調理スタッフ募集☆

◆内　容◆　愛隣デイサービスセンター　調理補助　◆資　格◆　資格必要なし
◆時　間◆　9：00-15：30　　時間・曜日相談に応じます
◆時　給◆　850円～(試用期間有)
◆待　遇◆　交通費実費支給(上限20,000円)、昇給有、自転車・バイク通勤可

2010年　夏期献金のお願い　――これからの"地域"を見据えて――

当センターが、この向島の地に誕生してから、早くも30年が経過いたしました。今日まで、皆様方のご理解とご支援によって支えられ、活動を続けることが出来ましたこと、心より感謝します。
新政権が誕生し、新しい時代へと移り変わっていく期待が膨らんでいましたが、その期待も一気に萎んでしまっている今日この頃です。長妻厚労相は、就任後、稀代の悪法である「障害者自立支援法」の廃止をいち早く公表いたしました。がしかし、いまだに「廃止」される見通しはたっていません。今後、「障がい者総合福祉法」が制定されるという話ですが、障がいのある人が、あたりまえに地域で安心して暮らしていくことができるような制度となるように、声を挙げていきたいものです。
しかし、どのような法律や制度ができたとしても、隙間はできてしまいます。私たちは、その隙間を埋めていく働きを、これからも続けていきたいと願っております。その働きのために、皆さまからのご支援、ご協力をお願いいたします。
これまでも皆様方には多額の献金をして頂いているにもかかわらず、新たなお願いをさせて頂くのは、誠に恐縮ですが、今年度も夏期献金にご協力頂きますよう、改めてお願いを申し上げる次第でございます。

《夏期献金・要項》
目　　的：障がい児・者とその家族とが地域で安心して暮らしていくことができる為に、愛隣館研修センターの今後の活動を支援する
目標金額：　3,000,000円　　※　口数、金額ともに任意です。
送金方法：　郵便振替　０１０２０－５－３９３２１
口 座 名：　社会福祉法人イエス団　愛隣館研修センター

★お知らせ★

▽愛隣館研修センターは、八月十二日～十八日まで夏期休館日とさせていただきます。

★編集後記★

▼愛隣館研修センターニュース79号完成▽ご意見ご感想お待ちしております（さ）

▼厚生労働省「介護職員等に実施するたんの吸引等のための関係制度のあり方検討会」を立ち上げる検討をはじめ、障がい者自立支援法の廃止に向けて、医療的ケアを必要とする方々の課題や、医療的ケアの制度化に向けて、国会議員の本気度が問われる。▽チャンピオンデータ提出の期限が来年度に迫っている。▽医療開示請求の方法が、地域障害者自立支援協議会に、ケアマネジャーの部会が設置されるなら、医療的ケアの発信地域望ましい。▽暮らす市民の望むケアが、当たり前にもなる。（ひ）